

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

## 導水路はいらない！愛知の会

2012年05月09日

〒467-0853

名古屋市瑞穂区内浜町 1-15

加藤 伸久方

TEL/FAX 052-811-8069

URL: <http://www.dousuiro-aichi.org/>

会報 14号

—県知事らは、一刻も早く不要不急の支出「導水路事業」を止めて下さい！—

### 2 / 23 (木) 住民訴訟・第14回口頭弁論が開かれる

口頭弁論当日は、昨夜からの冷たい雨が降り止まず、傘を差しての事前集会です。

足下の悪いなか約 20 人が参加の集会では、小林共同代表より村々コンビ（大村&河村）証人喚問、半田の宮崎さんより「飲み水を元の本曾川に！学習会」、本村さんより「設楽ダム」控訴審、などの取り組みが報告・確認されました。また、入廷行進時には雨上がとなりました。

法廷では、原告・田中九思雄さんが市民運動の原体験から、① 日本の行政は企業優先、② 公共事業は起債でつけ回し、と糾弾。今こそ、③ ムダな導水路事業を止めて県民生活を守れ などと力強く意見陳述（P2～3 収録）しました。



### 大村知事・河村市長らの「証人尋問」採否は、次回（5/16）口頭弁論で

報告集会では、在間弁護団長より「書面」（別冊参照）と今後の進行について解説がありました。双方の主張はほぼ出尽くし、証人尋問をどうするか段階に入っていますが、本日の口頭弁論では裁判所は証人の採否を決めず、次回に先延ばししました。



原告側は昨年 4 月、専門家証人として山内克典岐阜大名誉教授（流水の正常な機能維持、ヤマトシジミの生息に根拠なし）と富樫幸一岐阜大教授（新規利水の必要に根拠なし）を申請し、当事者的証人として昨年 12 月、大村秀章愛知県知事と河村たかし名古屋市長（新規利水の必要に根拠なし）、国交省職員 A 氏（維持流量）を申請しています。

他方、被告側は愛知県職員（フルプラン策定手続きの適正）と国交省職員（河川整備計画が適正）を申請しています。なお、国交省職員 A 氏については、原告側の申請に対して「必要ない、却下を求める」と言っていたのに？？？

P 1～3	2/23「導水路」裁判・第14回口頭弁論（&原告・田中さんの意見陳述書）について
P 4～5	投 稿 *長良川と徳山ダムの流水「定例水質調査」3年・武藤 仁「市民学習会」事務局長
P 6～7	投 稿 *やっぱり導水路は愛知県財政を破滅させる …近藤ゆり子「徳山ダム」事務局長
P 8～9	投 稿 *小学校1年生にもわかる会話をしよう！ …伊奈 紘「設楽ダムの会」副代表
P 10～11	<「新聞」スクラップ2題（① 設楽ダム公開講座 ② 長良川の環境悪化と河口堰）>
P 12	「イベント」、裁判傍聴の参加など 会員・支援者の皆さまへお願い

#### ◆ 次回（第15回）口頭弁論のお知らせ／5月16日（水）11時～地裁・1号法廷

\*内容 原告・岩田 和己氏の意見陳述など、証人の採否→弁護団による「報告集会」

「3周年記念&2012 総会」・・・7/7（土）午後2～4 桜華会館 3F・竹の間

平成21年（行ウ）第49号公金支出差止請求事件

原告 小林収外91名

被告 愛知県知事外1名

## 意見陳述書

名古屋地方裁判所民事第9部 御中

2012年2月23日

原告 田中九思雄

私は愛知県豊田市に住む田中九思雄です。

私は23歳から60歳まで労働組合に雇われた組合書記でした。現在の一番の関心事は、「派遣労働法」の廃止活動です。小泉内閣時代に強行されたこの法律は労働者の基本権を奪う悪法です。今、特に高卒・大卒の若い人たちの就職に深刻な打撃を与えています。企業にとっては必要な時だけ人間が使える便利な制度でしょうが、働く側からは、いつ止めさせられるか分からない境遇が一生続く不安定な生活が強要されるものです。

私は20歳代に公害問題が最も重要と考え活動してきました。

当時は水俣病や富山のイタイイタイ病、四日市ゼンソクなど、企業から排出された有害物質により住民が生命・健康に深刻な被害を受ける事案が多発しました。国や自治体は、最も重要な発生源の企業に有害物資の排出を止めさせる指導を行わず、被害者の治療費の一部を僅かに補償する態度に終始していました。

当時の有害物質の規制は「濃度規制」でした。水質汚濁防止法に基づいて造られた「処理場」は、基準濃度を超えた汚水を1カ所に集めることでした。有害物を除去するものではありません。10種類の別の汚染水を集めれば、それぞれの濃度は10分の1になり、濃度規制基準を下回ります。ペテンとしか言いようがありません。

これは、企業を育て生産力を上げることが最重要で、その結果出る被害は住民が容認すべきだとの意識が、国や自治体の主流だったためだと私は思います。私は政治・行政をこのように見るようになりました。

この企業優先の行政姿勢は、公害に限らず全ての面に及びました。

海に近い自治体は埋め立てで、陸地の自治体は山を削って平地にし、工業団地を競って造りました。しかし、バブル崩壊後、景気の後退によって進出する企業は殆どありませんでした。これらの事業の費用は「起債」で調達されました。起

債は借金です。これらの自治体では住民の税金は、住民福祉ではなく、借金返済に充てられました。

これらの工業団地に企業を誘致するに当たり、各自治体は、水道や電気などを準備するため、電力会社や水資源公社に有り余るほどの量の確保を要望しました。こうして、電力では原子力発電所が安全性を考慮しないまま、続々作られました。

福島原発の悲惨な事故より、電力についての国民の関心が高まったため、様々なデータが新たに検証されました。明らかになったことの 하나가、原子力発電所から出る電力が無くても、日本で必要な電力量は確保できるということです。

水資源についても同じです。日本の殆どの河川で「増大し続ける水需要に対処するため」ダムが計画され、そこに住んでいた住民を立ち退かせて、ダムが作られました。現在も続いています。私は豊田市青木町に住んでいますが、500戸ぐらいの町内に矢作川のダム建設により旧東加茂郡旭町から引越ししてきた方が10戸程度おみえになります。

しかし、ダム建設当時見込まれていた消費水量は、特に工業用水では、現実には大量に余っています。一般企業でいえば、予測して作った製品が大量に売れなければ、倒産しかありません。しかし、水資源の予測をし、住民を立ち退かせてまで強行した、ダム建設の責任を取った人はありません。

今回の木曽川導水路計画も、今までの水行政の誤りを踏襲しているものだと考えます。そもそも徳山ダムは必要なかったのです。徳山ダムを作った後、大量に余る水の処理に困って、起きるかどうかわからない「木曽川の渇水」を口実に計画したのが「導水路」だと、私は思います。

現在、3・11東北大震災が起こり、その復興のために消費税引き上げを始め、あらゆる税金の引き上げが予定され、「復興債」と言う名の巨額な借金が予定され、それでも足らず国民に義援金を呼び掛けている時、不要不急の支出は見直されるべきです。

折しも、愛知県は2月13日、平成24年度の予算編成に当たって、「財源不足1800億円」の解消のため、更なる県職員の給与の削減と、県債の発行増、将来の借金返済のために積み立てる「減債基金」と自治体の貯金に当たる「財政調整基金」の取り崩し等々で乗り切ろうとする、苦し紛れの予算案を発表しました。

しかし、愛知県にとって、不要不急の支出の最たるものは、この導水路事業費に外なりません。

無駄な公共投資を是正し、県民の生活を守るための画期的な判決が下されることを切望して、私の陳述を終わります。

長良川市民学習会事務局長 武藤 仁

## ◆ 長良川に冷たいダムの水はいらない

木曽川水系連絡導水路計画を知ったとき、私たちは本流の上流にダムがない長良川にダムの水が流されたらどうなるのか、とても心配でした。

「長良川に徳山ダムの水はいらない」と声を上げた私たちは早速 2008 年 1 月 16 日に最初の市民学習会を開催し、「ダムが川に及ぼす影響」のテーマで名古屋女子大学の村上哲生先生に講演をしていただきました。そこで私たちは、ダムの冷たく濁った水は問題で生物に大きな影響を及ぼすことを学びました。

国は、渇水時長良川に徳山ダムを流して水量を増やすことが環境改善になると主張しています。同年 6 月の市民学習会では岐阜大学の向井貴彦先生を講師に『長良川的环境改善』ってホント？という題で学習しました。ここでは、魚の産卵・棲息を根拠に作られた渇水時の「正常流量の維持」が全く非科学的なものであることが浮き彫りになりました。そして先生は「ダムの水は、通常流れている河川とは水温が異なっており、プランクトンの発生によって水質も変化している。徳山ダムによる悪影響は予想されてしかるべし」と強調されました。



## ◆ 西平の水を調べよう

それでは長良川の水と徳山ダムから流れてくる水は、いったいどのくらい違うのだろうか？私たちは同年 8 月 5 日、導水路の取水口となる西平ダム湖と放水地点となる岐阜市長良古津（千鳥橋）において水温と COD を調べました。結果は水温、西平が 17.2℃、千鳥橋 24℃で予想を超える 6.8℃の大きな差がありました（COD は西平が 3.6 mg/l、千鳥橋が 2.1 mg/l）。

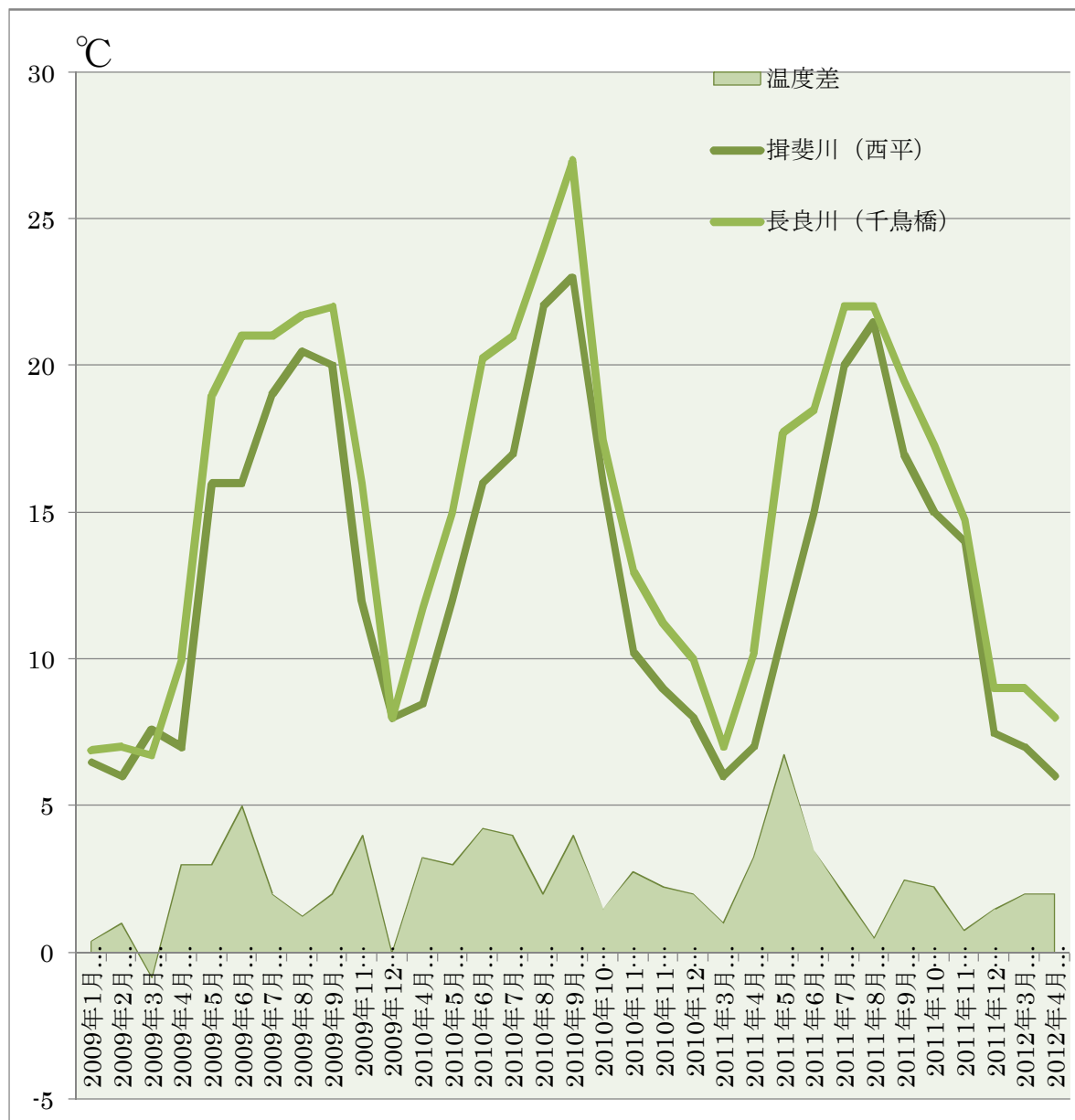
西平地点での観測設定をしていなかった事業者側は、私たちの動きを察知してか、翌日の 8 月 6 日から調査をするようになり公表もしています

(<http://www.water.go.jp/chubu/kisodo/suisitutyousa.htm>)。

## ◆ 定例測定の方法と簡単な測定結果報告

市民学習会はこの結果を受け、川の実態を経過的に今後も調べようと定例水質調査を開始を決めました。しかし、調査のための財源とそれに携わるスタッフとなると大変難しい。幸い私たちが最も知りたい水温の測定は簡単です。CODについては粕谷先生にお願いすることにして、調査項目は2項目としました。測定方法は、スタッフを2班に分けて、月1回概ね午前8時に同時に西平と千鳥橋で測定する。それぞれ岸边と流芯（橋の中央からバケツを下ろし水をくむ）で一つずつサンプルを採取します。2009年1月6日から今日まで毎月調査しています（道路凍結の危険がある1、2月は止めました）。本稿では紙幅の制限から水温についての簡単な報告をします。

下の図は、岸边と流芯のデータの平均値をとってグラフにしたものです。



## ◆ 冷たいダムの水で長良川を悪化させないで！

徳山ダム放流水の影響を受ける西平の水が、ほぼ一貫して長良川の水より冷たいことが分かります。特に重大なのは、アユなどの成長にとって一番大事な4月から6月にかけて温度差が大きいことです。温水時の環境改善？この冷たい水が長良川の川底を流れることを想像するだけでぞっとします。



# やっぱり導水路事業は愛知県財政を破滅させる ～ 岐阜県にとっての徳山ダムの重さ ～

徳山ダム建設中止を求める会事務局長 近藤ゆり子

皆さまには、さまざまな場面で、「徳山ダム建設事業が、岐阜県財政に与えている負担の重さ」についてお伝えしてきました。

◇ ◇ ◇  
律儀にも、岐阜県河川課が「治水事業費推移」の最新版を作成して送ってくれています（年度替わりすぐ）。多分、私に「早くブログにアップしてくれ」と言いたいのだろうけど、私は「脱原発」と「秘密保全法」が一緒に回り出してしまって、「徳山ダム建設中止を求める会事務局長ブログ」更新どころではない状態（それにしても作成した河川課の担当者は苛ついているだろうな、「せっかく早く作ってやたのに、グズグズするな！」と）



※H10～H23は最終。H24は県予算ベース。

文字は小さくて見にくくなっていますが、元のデータではしっかり表示されています。

最高時＝H10年＝ 492億3900万円

どんどん減って

H24年予算＝ 93億6000万円。

つまり、往時の20%を切り、19%の予算しかつかない状態です。

これでは、最低限の河川防災もできない。

◇ ◇ ◇  
「岐阜県河川課の悲鳴」なのです。その「悲鳴」を、長々対立し続けた（＝岐阜県に「徳

山ダム・公金支出差止訴訟で裁判闘争を挑み続けた）「徳山ダム建設中止を求める会」の近藤に、伝えさせようとしているのです。

◇

◇

◇

岐阜県はとにかくお金がない。起債許可団体です（起債には国の許可が要る。つまり「札付きの多重債務者ブラックリスト入り」状態）

どの部署も「予算削り競争」。要るも要らないも・・・とにかく「削る、予算はつけない」。河川課は、その競争で不利な立場です、なぜか。

そもそも岐阜県がここまでビンボーになってしまった大きな要因の一つが「徳山ダム建設事業／治水／直轄負担金」だったから。

徳山ダム岐阜県負担額（交付税措置後） H21年度までは既出、以降は予定

年度	合計	治水	利水 (上・工水 計)	上水	工水
H15	26億3714万	16億6704万	9億7010万	0	9億7010万
H16	56億3096万	49億4614万	6億8482万	0	6億8482万
H17	45億9285万	40億4815万	5億4471万	0	5億4471万
H18	42億5620万	37億9441万	4億6180万	0	4億6180万
H19	41億1231万	36億5131万	4億6100万	0	4億6100万
H20	38億8577万	11億3978万	27億4599万	7億9389万	19億5210万
H21	37億8801万	10億2679万	27億6122万	8億 187万	19億5935万
H22	39億8507万	12億2056万	27億6482万	8億 238万	19億6234万
H23	39億9490万	12億3906万	27億5585万	8億 290万	19億5295万
H24	35億5111万	8億1893万	27億3218万	8億 343万	19億2847万
H25	35億4151万	8億3414万	27億 736万	8億 397万	19億0339万
H26	35億2312万	8億3919万	26億8393万	8億 452万	18億7941万
H27	35億 70万	8億4112万	26億5959万	8億 508万	18億5451万
H28	34億7972万	8億4554万	26億3417万	8億 624万	18億2852万
H29	34億 506万	7億9893万	26億 623万	8億 684万	17億9999万

単位：円 1万円未満 四捨五入

「治水」がH16にグンと増えたのは、徳山ダム建設事業費大幅増額のときに、無理無理「治水分」を増やしてしまったから。どちらかといえば嫌々になっていた、愛知県と名古屋市の「利水」負担分をできるだけ小さくして「付き合えよ、降りるなよ」とやったわけです。

◇

◇

◇

さて、当時は「交付金で何とかする」みたいな口約束があったのかもしれませんが、現実には「交付税」は減らされっぱなし（当時から見えていましたが）

河川課は「お前らの所為でウチの予算がつかなくなった」と責められ、ホントに必要な分も削られている。

◇

◇

◇

一番可哀想なのは誰？

厳しく危険でも堤防の補修すらやって貰えない、洪水常襲地域の流域住民。

◇

◇

◇

木曽川水系連絡導水路建設とは、つまり愛知県も岐阜県と同じことになっていく、ということ、これはやめさせなければ。 公金支出差止！



# 小学校 1 年生にもわかる会話をしよう！

「設楽ダム建設の中止を求める会」副代表 伊奈 紘

## 1. ワースト・アセス・コンテスト

3月22日（木）衆議員第一議員会館多目的ホールで開かれた「ワースト・アセス・コンテスト」に参加しました。これは日本最悪の環境アセスは何かを競うものでした。

当日は、① 普天間飛行場代替え施設建設事業（辺野古） ② トヨタテストコース ③ 上関原発計画 ④ 設楽ダム ⑤ 新石垣空港整備事業 ⑥ 諫早湾開門 ⑦ 秋田成瀬ダム ⑧ 徳島東部＜吉野川河口近く＞の複数の道路建設 ⑨ 沖縄高江ヘリパッドなど広範な話題が取り上げられ、日本中いたるところに同様の問題があるのだと再認識しました。発表を聞いていて、全てに共通する問題点があることに気付きました。

- ① 全てアセスを行うのが事業者自身であり、不都合なものは隠ぺいし、重要な項目については「環境に与える影響は軽微である」と結論づけるようになっている。
- ② 事業者はアセス結果で建設中止とか計画変更するとかは全く想定していない。
- ③ 調査はいつも極めて不十分で、形式的なもの。調査機関は官僚の天下り先になっている。
- ④ 住民の質問や危惧は全く無視し、誠意を持った回答をしないだけでなく、強く意を言ったり、行動に移したりすると工事の邪魔をしたと逆に訴えられる。

日本という国は酷い国ですね。みんな怒らにやダメですよ。原発も電気料値上げも……。小学生にもわかる説明をしてほしいものです。

## 2. 「設楽ダム」のワースト・アセス度を検証

### 2-1 国土審議会 水資源開発分科会 豊川部会

ワースト・アセス・コンテストに先駆け、3月19日（月）豊橋商工会議所でこの会議が開かれました。普段は国土交通省内で開催される会議が、今回は午後現地視察をするということで豊橋開催となったようです。

しかし、視察地は豊橋周辺に限られ、肝心の設楽ダム建設予定地までは足を延ばさなかったようです。一番驚いたことは、基本計画の点検に当たって、「できるだけダムに頼らない治水・利水を考える」としながら「事業の進捗状況の点検等を行うが、個別事業（設楽ダム建設事業、豊川用水二期事業）の必要性そのものについて議論する場ではない」と書かれていたことです。

これはまともな日本語にもなっていませんが、ようは「まともに点検しないで、厳しい評価をしないで、反省の必要はないよ、修正しないでね……」と言っているらしい。この姿勢が原発事故につながったのではないですか？そして国や地方自治体が多額の借金をつくった原因ではないのですか？

### 2-2 設楽ダム連続公開講座

3月26日（月）東三河総合庁舎で第1回運営チーム会議が開かれました。

以前から機会あるごとに設楽ダムの必要性について公開討論会を開くよう大村知事に要望してきた我々にとっては、朗報です。ご存知のように現在、「設楽ダムの再検証の場」は国交省中部地整が中心になって行っていますが、これは全く無意味な会。ヤクザが集まってヤクザの是非を論じているようなもの。



設楽ダム建設費の3分の1を負担する愛知県が、いつまでも「国が決めたことに逆らえない」なんて言うておらず、本当に必要かどうかを主体的に判断してほしい。そのために一番いい方法として「建設推進派と反対派を一堂に集め、オープン場で議論させたらどうですか」と我々は繰り返し訴えてきたわけです。

懸念材料もあります。会を進めるのは運営チームですが、事務局が設楽ダム建設を推進してきた県地域振興部（裁判の被告人）であることです。講師の選び方で議論した時「裁判の原告は公開講座の講師から除外してほしい」と事務局が言ったことに彼らの気持ちももろに出たと思いました。

これについては、私も反論をしましたが、チーム委員の中からも「なぜ、裁判に訴えられているのか聞きたい」とか、「原告はダメで、被告はいいというのはおかしい」という意見が出されました。我々の会開催の要望趣旨や知事の考えと、事務局の考えとの間に大きな隔たりを感じます。この会が意義あるものになるかどうかは、今後の運営チームの手腕と知事の腹く本音>にかかっていると思いました。

ともあれこの不公平感は小学生にどう説明しますか？

## 2-3. 設楽ダム公金支出差止訴訟

3月27日（火）名古屋高裁で裁判（「控訴審」第6回口頭弁論）が開かれました。



設楽ダムサイト（寒狭川）予定地

驚くことはまたまた裁判長が代わったことです。地裁から数えると4人目でしょうか？ だから弁護士の代表が今回もあらためて、この裁判の趣旨について意見陳述をしました。正直言って、この裁判長が今までの膨大な準備書面や陳述書をどれくらい真剣に読み、また理解できるか心配になりました。

また、新しい裁判長は急いで結審したい意向がありありで、次回の裁判日程だけでなく、その次の日程まで決めておきたい様子でした。聞くところによると、徳山ダムの裁判で酷い判決を下したのもこの裁判長だったそうで、今回の判決も期待できない感じです。

在間弁護士が現地視察を要望しましたが、これも乗り気でなさそうでしたね。現地も見ずに判決を下せるのですか？ 相手が小学生だったらどう説明するのでしょうか。

## 3. さて、本題です

「話がかみ合わない」という言葉がありますが、ダム問題に取り組んで以来何時も苦々しい思いをしてきました。原発事故を機会に東電、保安院、原子力安全委員会、官僚、政治家などの言葉が如何に嘘でかためられ、自分たちの責任逃れに終始しているかは、誰にも分かったと思います。

「組織を守るためには嘘も方便」「ケチな正義感を出す奴に将来はないぞ」「返答に困った時は、黙っておればいい」。彼らにマニュアルがあるようです。何時までもこんなことでもいいのでしょうか？ 後ろめたさは感じないのでしょうか？ 私はいやだなあ。

27日の裁判では、明らかに県職員か中部地整職員と思われるスーツ姿の人が多く傍聴席に座っていました。動員をかけられたのでしょうか？ ……。閉廷後、彼らに「あんたら、勤務中じゃないのか？ これも勤務か？ 年休取って参加してるのか？」と言ったところ、みんなただ黙って退場して行きました。後めたくないのかなあ。

人はごまかそうとすると訳のわからない言葉で話します。都合が悪くなると黙ります。私は教員時代、いつも「小学校1年生でもわかる話をしよう」と心がけ、後輩職員にもよく言いました。さすがに保育園児にわかるように話すのは難しいですが、小学1年生ならほとんどの大人の会話を理解します。普通に話せばいいのです。

「大人はなぜ平気で嘘をつき、自然を破壊し、命を粗末にするのか？」をテーマに一度小学生と討論してみたいと思います。

## 清流、の環境悪化 サツキマス漁で知る

— 長良川で岐阜高の2人 —

長良川の環境変化を学ぼうと、岐阜高校（岐阜市）自然科学部生物班の三年梅村啓太郎君（もと二年）村凌君（もと二年）羽島市小瀬町でサツキマス漁に同行した。

二人は、絶滅危惧種カスミサンショウウオの飼育など、希少生物の保護に取り組んでいる。長良川で六十年以上漁を続ける羽島市小瀬町、大橋亮一さん（もと弟修さん）の舟に同乗した。



大橋亮一さん（右）は、長良川の変化を梅村啓太郎君（中）と二村凌君に語った＝羽島市小瀬町の長良川で

んは治水工事や河口堰建設による川の変化を説明し、「ここより下流の岸はセメントばかり。どろが清流」と嘆いた。梅村君は「舟に乗るとまるで湖のように流れてない。これ以上、環境を悪化させないためにどうするべきかを考えたい」と話した。（豊田直也）



約100人が参加した市民学習会

2012/5/6・中日新聞（岐阜県民版）・朝刊

2012/4/2・毎日新聞（岐阜県民版）・朝刊

長良川河口堰問題  
市民100人が学習会  
開門調査目指し  
長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査の実現を目指した市民向け学習会が1日、岐阜市・JR岐阜駅近くのハートフルスクエアで行われ、河口堰問題に関心を持つ約100人が参加した。

河口堰の開門調査を巡っては、愛知県の専門委員会が5年以上の開門調査を提言した一方、国は開門によって塩水が逆流して農業などに悪影響を与えるとして否定的な姿勢を見せている。

学習会では2人の専門家が講演。愛知県の検証プロジェクトチームのメンバーだった蔵治光一郎さんは「行政の腰は重い。市民側から開門調査の実現に向けて働きかけ続ける必要がある」と指摘した。

岐阜大地球科学部の向井貴彦准教授は「河口堰は潮の満ち引きによって水位が変化するため、水位が大幅に減少させ、城を大幅に減少させ、そこに生息する動植物の生態系を崩壊させた。開門調査を行い、大規模な自然再生実験のモデルとすべきだ」と話した。

学習会は市民団体「長良川市民学習会」（粕谷志郎代表）が主催した。【三上剛輝】

http://www.tonichi.net/news.php?mode=view&id=39785&ca... 2012/03/20

2012.03.20

政治行政

【東日ニュース】News&Topics

## 設案ダムへの理解深める

愛知県は新年度から、国が再検証作業を進める設案ダム（設楽町）について、地域振興を主なテーマに連続公開講座を開催する。県の負担金の支出が今後も続くことから、県民に広く情報を提供し、理解を深めてもらおうという狙いで、ダム事業を巡り、県民から広く意見を聞く仕組み作りを目指すとした大村秀章知事の意向を踏まえた取り組みの一環。

設案ダム建設は国の直轄事業だが、総事業費約3000億円のうち、県も水没予定地の住民支援や関連道路の整備費などを負担し、その額は今年度末までに約200億円になる見通し。

今後も約1200億円の支出が予定されていることから、県民に情報を提供し、ダム事業に対する理解を深めてもらおうと公開講座を開く。

12年度の1年間で6回程度を開催し、1回の参加は約700人を想定する。日程や講師など詳細は未定だが、テーマは河川行政に重きを置く国とは一線を画し、農業戦略など、地政学の視点を踏まえた地域振興が取り上げられるもよう。

運営手法は、別に設ける運営チームで詰める。運営チームのメンバーは、戸田敏行（愛知大地域政策学部教授）▽井上隆信（豊橋技術科学大大学院教授）▽蔵治光一郎（東京大大学院附属演習林生態水文学研究所長）▽鷺見哲也（大同大准教授）▽原田さとみ（タレント）—の5氏。

会場は名古屋市内や豊橋市内をはじめとする東三河地域になる見通し。運営チームでは講座の回数や場所、一般参加者の募集方法などを検討するほか、メンバーが当日の司会やコーディネーターも務める。

1回目の公開講座は5月ごろに開かれる。大村秀章知事も出席する予定。

設案ダム公開講座  
防災など6テーマ  
運営チーム初会合  
県が新年度から予定  
する設案ダム公開講座  
の運営チーム初会合が

二十六日、豊橋市内で  
あり、防災や水など六  
つをテーマに来年三月  
まで六回の講座を開く  
ことを決めた。

チームは水環境や河  
川などの専門家五人で  
この日は講座で取り  
上げるテーマを議論  
し、防災、水、生き物

のほかに「設案ダム  
て何」「生活とダム」  
「地域の将来」と決め  
た。次回会合で開場  
所や講師を選定する。

愛知大教授（地域計  
画）は「講座では、東  
三河地域の生活・環  
境・経済が持続的に維  
持できるという観点で  
情報を伝えることが  
重要」とあいさつし  
た。

設案ダム講座に  
設楽町長が懸念  
県が開催を発表した  
設案ダムに関する講座  
に対し、設楽町の横山  
光明町長が二十一日の  
町議会本会議で、「ダ  
ム建設の方向性を議論  
する場になつてはなら  
ない」などと懸念を表  
明した。

県は、設案ダムへの  
県民の理解を深めても  
うため連続公開講座  
を開くことを十九日に  
発表した。大村秀章知  
事も出席する予定で、  
一回目の開催時期を五  
月ごろとした。

横山町長は本会議冒  
頭の行政報告で、この  
発表に触れ「講座によ  
って反対する意見が出  
されて批判の場とな  
り、ダム建設の現計画  
に水を差すようなこと  
になれば、多くの町民  
の意思がばいとなるこ  
とを危惧する」と発言  
。講座がダム建設の  
方向性を議論する場には  
「決してなつてはなら  
ない」と述べ、「取り  
越し苦労となればよい  
が」と結んだ。

## ◆◆◆会員の皆さまへ “イベント参加” のお願い◆◆◆

①、②、③ ともく問合わせ先：「長良川市民学習会」事務局（武藤宅 090-1284-1298）

—「よみがえれ長良川・伊勢湾！」実行委が全国グリーンウエーブの一環として行う—

### ① 5/26（土）下流域生物相調査団の千藤先生「長良川河口ヨシ原観察会」

\*本「観察会」は、全国に告知「湿地のグリーンウエーブ 2012」の一環の取り組みです。

◆と き：午前 10 時～12 時・長良・揖斐下流（※午前 9 時 30 分に三川公園駐車場へ集合）

—ゲート閉じて 16 年、源流の森から海まで、川の現状を見て、今後の方向性を考えます—

### ② なごや環境大学・共有講座・第 1 回よみがえれ長良川！（全 4 回）—その 1



#### ◆第 1 回…「河口堰」と河口の漁業（黄チラシ参照）5 月 12 日（土）

会場・講師：赤須賀漁港・伊藤研司さん（しじみプロジェクト）

\*漁船に乗ってしじみ漁を体験し、水中の様子を考えます

午前 10 時～15 時、受講料 1000 円、定員 20 名

#### ◆第 2 回…「源流の山と森」（郡上市の山林を見る）6 月 3 日（日）

会場・講師：郡上八幡周辺の山・小森胤樹さん（林業家）

\*源流付近の山と森を歩き、山と川のつながりを考えます。

午前 10 時～15 時、受講料 1000 円、定員 20 名

今後の予定 第 3 回（7/15）・カヌー・ラフトで川下り、第 4 回（9/29）・「河口堰」検証専門委員を招いて

—漢江、錦江。洛東江、榮山江の 4 河川に 20 カ所以上のダムと堰を建設！—

### ③ 6/15（金）～18（月） 韓国 4 大河川「開発事業」と現地交流ツアー



韓国政府は、この事業による生態系へのダメージを否定していますが、土砂浚渫量は、5.7 億立方メートルに及ぶ大規模なもので、国際的に重要な渡り鳥の渡来地を消滅させ、河川流域の希少な動植物の生域を脅かすものに他なりません。

“自然破壊を招く四大河川開発事業を中断し、代替案を検討せよ！”と一昨年名古屋で開催の COP 10 会議へ参加の「韓国環境運動連合」は、長良川の開門を訴える「長良川市民学習会」と多いにエール交換したところです。

百聞は一見にしかず、皆さまの参加を心よりお待ちしております。

◆参加費：8～10 万円 ◆定員：先着 10～15 名

—総事業費 3 千億円の設楽ダムは中止し、東北大震災の復旧復興に回せ！—

### ④ 6/5（火）「設楽ダムの建設中止を求める」控訴審・第 7 回口頭弁論

＜問合わせ先＞「設楽ダムの建設中止を求める会」事務局（奥宮宅 0532-54-7305）



裁判長の異動に伴い、3/27 第 6 回口頭弁論では弁論更新手続きが行われ、控訴代理人・竹内弁護士がこれまでの主張を要約し、＜水道・農業用水とも使い道なし、水害対策は堤防強化が効果的、環境影響評価が不十分＞と意見陳述をしました。新たな争点として、ダム予定地の脆弱性を主張。地下水への影響や水漏れ、地滑りの危険性を指摘し、費用負担は違法と訴えました。

◆と き・ところ 午後 4 時～名古屋高裁・第 1 号法廷